

特集

# 西日本豪雨災害への医療支援

## 災害医療作戦指令 センター(DMOC)の活動報告



災害医療研修センター(DMEC) センター長 伊藤 重彦

### 1. はじめに

地域の多岐にわたる災害医療情報を1カ所で集約管理する災害医療作戦指令センター(DMOC)システムは、全国に先駆けた災害時医療支援システムとして、2016年4月に北九州市医師会医療救護計画としてスタートした。システムの課題検証を行う間もなく、2016年4月熊本地震、2017年7月九州北部豪雨が発生し、その都度DMOCを設置し、情報収集活動を行った。本稿では、2018年7月に発生した西日本豪雨におけるDMOC活動について報告する。

### 2. DMOC設置及び関係機関との通信回線の確保

台風や豪雨災害発生時のDMOC設置基準は、危機レベル橙(オレンジ)の警戒体制から危機レベル赤(レッド)の第一配備体制へ移行するときである。

7月6日(金)午前7時50分、北九州市は警戒体制から第一配備体制に移行し、市役所に災害対策本部が設置された。そのため、8時30分にはDMOC設置を宣言し、直ちに関係機関との通信回線を確保した。まず災害拠点病院へ連絡し、医療機能レベル、傷病者受入れ体制と空床等について調査した。続いて、危機管理室、消防機関、保健衛生部局から市内における傷病者数、避難所開設数および避難者数等について情報収集し、医療支援要

請に備えた。また、5地区医師会、薬剤師会と通信回線を確保し、現状の被災状況について情報共有した。9時55分、北九州市は第二配備体制へ移行した。新しい市の防災体制になってから第二配備体制に移行したのは、今回が初めてである。DMOC活動経過は、1日1~3回のDMOC通信により関係者へ情報提供された。7月6日DMOC設置から9日閉鎖までの間の通信内容は一部抜粋して表1に示した。

### 3. DMOCと関係機関の通信事例の紹介

小倉南区Bクリニック(透析医療機関)の転院搬送事案において、DMOC、Bクリニック、A災害拠点病院、透析医会との間で円滑な情報交換ができたので事例を紹介する

①A災害拠点病院⇒DMOC:「詳細は不明だが、B



写真1 DMOC立ち上げ。メンバーはそれぞれ担当する関係機関と通信回線を確保

表1. 西日本豪雨における災害医療作戦指令センター（DMOC）の活動経過

日 時	送受信時間	通信内容
7月6日	7:50	(消防局から) 北九州市は第一配備体制に入り災害対策本部設置
	8:30	(DMOC通信①)
		・ DMOC設置宣言、直ちに関係機関との通信回線を確保
	8:32	(消防局から) 門司で土砂災害1名救出、2名生き埋め
		・ 市内災害拠点病院の機能維持、後方ベッド確保等調査
	9:55	(消防局から) 北九州市は第一配備から第二配備体制へ移行
	10:13	(A透析クリニックから) 玄関前の土砂災害の情報提供
		・ 入院患者11名の転院搬送調整、透析医会へ情報提供
	10:45	・ すべての関係機関において、通信回線確保の確認
	11:00	(危機管理室から) 市内災害概況(第1報) 情報提供
	11:50	(DMOC通信②)
		(消防局WSから) 災害受付 1032件、救助事案対応中 5件
	16:00	(DMOC通信③)
		(消防局救急WSから) 災害事案対応1656件、救助1件
	・ 第二配備体制継続中 門司土砂災害で自衛隊と消防機関協働で救助中	
	・ 健和会大手町病院Drカー出動、救助に時間を要し一旦帰還	
	18:02 (市保健福祉局から) 被災医療機関の情報提供(断水1、床下浸水5)	
7月7日	8:30	(DMOC通信④)
		・ 市内災害拠点病院からDMOCへ大きな被害発生への報告なし
		・ 受入れ体制変更なし、傷病者の集中や医療機能ダウンの情報なし
		・ 救助活動必要時には、市内3つのドクターカーで対応する
	12:45	(消防局から) 北九州市は第二配備体制から第一配備体制に移行
		(遠賀郡行政から) 在宅呼吸器装着小児患者の受入れ体制問い合わせ
	(災害拠点病院から) DMOCの夜間連絡先の問い合わせ	
	17:18 (福岡県医療指導課から) 市内医療機関被災状況の問い合わせ	
7月8日	11:31	・ 門司土砂災害現場から1名救出(北九州総合病院Drカー出動)
	18:00	(DMOC通信⑤)
		(福岡県DMAT調整本部から) 広島県へのDMAT派遣を決定
		・ 県内12チーム、北九州地域から6チームが第一陣として出動予定
	・ DMOC人員体制縮小、窓口を市立八幡病院救命センターへ移行	
7月9日	8:06	(消防局から) 土砂災害現場から1名救出(北九州総合Drカー出動)
	13:00	(消防局から) 北九州市は第一配備体制解除、災対本部を閉鎖
	14:00	(DMOC通信⑥)
		・ 市が配備体制から警戒体制へ移行したためDMOCを閉鎖
DMOC閉鎖後の情報提供は、災害医療研修センター(DMEC)で対応		
7月12日		{福岡県医師会から} 福岡県JMAT派遣情報
8月2日		(福岡県看護協会から) 災害支援ナースの派遣情報
8月6日		(JRATから) 全国のJRATの派遣情報

クリニックが土砂災害のため患者11人の対応が必要である。当院(A災害拠点病院)では11人の受け入れは不可。DMOCにて分散搬送できないか。

- ②DMOC⇒Bクリニック:「玄関前で土砂崩れのため、転院搬送を行う。転院患者は11人でC病院へ搬送予定である。患者の搬送は施設の患者用搬送車で可能と思っている」。
- ③DMOC⇒透析医会:「Bクリニックから11人の転院搬送が安全に行えるように、透析医会として状況確認を行い、バックアップをお願いする」。
- ④DMOC⇒消防機関:「Bクリニックから11人の転院搬送がある。施設搬送車による転院が困難な患者がいる場合、消防救急車の要請があるかもしれないので、情報提供する」。

#### 4. 亜急性期、慢性期にわたる公衆衛生管理に関する情報収集

DMOCの主たる役割は、情報が混乱する急性期に、要支援情報の正確な評価と分析及び適切かつ迅速な医療資源の投入である。しかし、公衆衛生上発災後も長期間にわたる医療支援が必要であり、長期的な支援活動内容をDMOCメンバー間で情報共有することは重要である。DMOC閉鎖から約3週間後の8月2日には、福岡県看護協会から災害支援ナース派遣に関する情報提供があった。また、8月6日には大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)から支援活動の情報が寄せられた。今回の西日本豪雨災害では、DMOC閉鎖後も災害医療研修センター(DMEC)を経由して、関係機関の支援情報が積極的に提供された。DMOCシステムは、スタートから2年半を経過して、災害医療支援に関する情報共有の場として少しずつ根付いてきていると実感している。



写真2 ホワイトボードに被災情報、支援要請内容、指示・支援内容を時系列で記載



写真3 DMOC全体で現状把握するため、定期的に各担当者が要支援と資源投入の報告

#### 5. おわりに

西日本豪雨におけるDMOCの情報伝達活動について報告した。地震災害、豪雨災害の経験を重ねることにより、DMOCにおける災害情報の収集・処理能力は確実に進歩を遂げている。

最後になったが、今回の西日本豪雨で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。